

27年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	△ 16.7	40.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	50.0	0.0
	カラマツ	0.0	△ 20.0	0.0
	トドマツ	16.7	33.3	0.0
消費動向	スギ	△ 33.3	40.0	20.0
	ヒノキ	△ 50.0	25.0	25.0
	カラマツ	0.0	40.0	20.0
	トドマツ	△ 33.3	0.0	33.3
在庫動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	△ 40.0	△ 20.0
	トドマツ	△ 66.7	△ 33.3	0.0

・スギ及びヒノキ原木の入荷は5月の減少が6月は増加、7月は横ばい、カラマツは5月の横ばい、6月は減少、7月は横ばい、トドマツは5月、6月の増加が7月は横ばい。

・スギ及びヒノキ原木の消費は5月の減少が6月、7月は増加、カラマツは5月の横ばいが、6月、7月は増加、トドマツは5月の減少、6月の横ばい、7月は増加。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して横ばい、ヒノキは5月の減少が、6月、7月は横ばい、カラマツは5月の増加が、6月、7月は減少、トドマツは6月、7月の減少が7月は横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
スギ	△ 33.3	0.0	0.0
ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	20.0	20.0
米マツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
北洋カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
その他	100.0	100.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は5月の弱保合が6月、7月は保合、カラマツは強含みで推移。

・米マツは5月、6月の弱含みが7月は保合、北洋カラマツは5月の弱保合が6月、7月は保合、その他は5月、6月の強含みが7月は保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・カラマツ丸太の入荷が安定してきた、入荷安定で生産に合わせての消費となる。
- ・カラマツ入手困難、5月は生産日少ない。
- ・製材、合板の製品市況が芳しくなく、消費分を入荷している状況。暖かくなり乾燥効率も上がってきて徐々に徐々ではあるが、スギの消費が増えつつある。原木在庫は若干多いが、極端な増減がないよう消費動向を見ながら入荷する。
- ・概ね横ばい、カラマツは在庫調整につき入荷減、消費は低位横ばい、一部在庫調整。
- ・総体的数量は安定的に入荷、県内産ヒノキ材の輸出は4月末終了との事。5月以降は安定的に入荷予定。在庫は生産減で当月からカラマツ材がやや増加。
- ・稼働日数少なく入荷量を制限、消費減る。在庫横ばいを保つため入荷制限。

(原木価格)

- ・米材、北洋カラマツは最近購入なし、一段と下がっている。スギは変わらず横ばい。カラマツは多少値上げになった。
- ・カラマツ引き合い多く上昇。
- ・国産材は変動なし。中国、日本の市況が余り芳しくないため現地在庫に荷余りがあり米マツ、北洋カラマツは下落ないし横ばい。
- ・需要が芳しくない中、相場弱含み。これから梅雨入りを迎える6-7月の需要動向次第、外国産は反転していく気配。
- ・ヒノキ、スギ材一部上昇（4, 5, 6月同価格で購入）。
- ・5月までは価格は下がり、6月以降は横ばいで行くのでは？

27年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
生産動向	構造用(9mm)	△ 33.3	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 14.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 42.9	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (28mm)	△ 57.1	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 16.7	20.0	20.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	16.7	16.7
	〃 (15mm)	△ 28.6	16.7	16.7
	〃 (24mm)	△ 28.6	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 42.9	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	14.3	0.0	△ 16.7
	〃 (15mm)	14.3	0.0	△ 16.7
	〃 (24mm)	14.3	16.7	0.0
	〃 (28mm)	28.6	16.7	0.0

・合板の生産は、24mmが3ヵ月連続しての減少を除いて、他の品目は5月の減少が6月、7月は横ばい。

・出荷は、9mm、12mm及び15mmは5月の減少が6月、7月は増加に、24mm及び28mmは5月の減少が6月、7月は横ばい。

・9mmの在庫は、5月、6月の横ばいが7月は減少、12mm及び15mmは5月の増加、6月の横ばいが7月は減少、24mm及び28mmは5月、6月の増加が7月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
構造用(9mm)	△ 16.7	40.0	20.0
〃 (12mm)	△ 42.9	33.3	16.7
〃 (15mm)	△ 28.6	33.3	16.7
〃 (24mm)	△ 28.6	33.3	16.7
〃 (28mm)	△ 28.6	33.3	16.7

・合板の出荷価格は、全品目で5月の弱保合が、6月、7月は強保合に。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・動き出してきた、適正在庫。
- ・15mm、28mmを減らして12mmを増産、先月末の在庫を見て調整。9mm以外は出荷減。お客さんは徹底した当用買いで様子見している。在庫は9mm、24mm以外は増えている、特に12mmは増えた。
- ・5月連休で生産減、6月からも生産調整継続。月を追うごとに出荷増、出荷増と共に在庫減へ。
- ・H26.7生産より10%~15%減産中、出荷は変動あるがほぼ横ばい。
- ・概ね変わりなし。
- ・4月、5月減産体制継続、過度の在庫せぬよう生産計画実施。出荷は全体的に減少！特に厚物が減少、6月以降に期待。出荷停滞で在庫量増加。
- ・荷動き悪く在庫増が予想されるため生産調整行う。荷動き悪いが生産量分は販売したい。荷動き悪く当用買い、徐々に在庫増える。

(合板価格)

- ・全品目下がっている。底値感は出て来ている。現場など仕事が増えていない。
- ・需要増と共に価格値戻し(値上げ)。
- ・全体的に下げ相場。
- ・4月最低ラインまで下落、5月以降価格の値戻しに期待。
- ・荷動き悪く他メーカーは安値を打ち出しているが、価格はそのまま維持したい。